

# 自然再生へ

# 池の水きれいに

## 準絶滅危惧種や在来種も確認

上尾市の上尾丸山公園で池の水を抜く「かいぼり」を施して半年。水質はよくなり、貴重なカエルや在来種の稚魚も確認された。きれいになったことで残念なことに藻が繁殖中だが、「これも自然の現実。ありのままを見てほしい」。市の担当者は、池の再生事業を理解してもらったためにも来園を呼びかける。

## 上尾丸山公園 かいぼり半年

公園は1978年に開園し、再生を目指し、外来種の駆除も進めている。大小三つの池があり、最も大きい「大池」で2013

4月から水を戻し始めて、5月には池底まで透き通って見えるほどになった。コイ科の在来種・モツゴなどの稚魚が確認された。環境省のレッドリストで準絶滅危惧種

に登録されている「トウキョウダルマガエル」も何度も目撃されている。この池では初めての確認だ。水辺再生事業には市民も力を貸している。

生物調査や水質浄化を促す植物を定着させるための浅場づくりは、かいぼり事業をきっかけにできた市民ボランティア「上尾水辺守」との協働作業だ。かいぼりの効果をきちんと検証するため、来園者には釣りや生き物の持ち込み・持ち出し、水草の採取・刈

それでも「密」をあまり気にせずに済む広々とした公園には、多くの市民が足を運ぶ。アジサイやショウブが咲き誇り、ウチワヤンマやコシアキトンボが飛び回る。梅雨に入り、池の水の循環が進む。「特に大雨の翌日は別世界ですよ」と丸山さんは教え

り取りなどをしないように守ってもらっている。いまの大池は5月の状態から一転、糸状の藻類・アオミドロのせいで緑一色に。「透明度が高まって光が水中に届くようになった。それで藻類の光合成が進んでしまった」と市みどり公園課の丸山治朗さん(40)。このため、週に1、2回、人の手で取り除いている。「そうしないと水中の酸素供給が閉ざされてしまうのです」

透明度高く藻が繁殖中ですが…

それでも「密」をあまり気にせずに済む広々とした公園には、多くの市民が足を運ぶ。アジサイやショウブが咲き誇り、ウチワヤンマやコシアキトンボが飛び回る。梅雨に入り、池の水の循環が進む。「特に大雨の翌日は別世界ですよ」と丸山さんは教え

(猪瀬明博)



- ①大池に広がったアオミドロを取り除く上尾市みどり公園課の職員
- ②アジサイやショウブもお出迎え＝いずれも上尾市平方の上尾丸山公園